

青森県経済統計報告

平成 27 年 4 月 30 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 27 年 4 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,310,809 人（対前月 6,077 人減少）
自然動態	724 人減少（出生者数 737 人、死亡者数 1,461 人）
社会動態	5,353 人減少（転入者数 3,806 人、転出者数 9,159 人）

2 本県の経済動向（平成 27 年 2 月・3 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、弱めの動きもみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、先行き判断 D I については、物価上昇への懸念等がみられるものの、観光・行楽シーズン到来による消費回復への期待等から、前期比 1.8 ポイント増加の 49.8 となった。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
・平成 27 年 2 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 106.8 で、前月比 2.5%の低下となり、3 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 96.4 で、前年同月比 1.1%の低下となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 27 年 2 月の**大口電力使用量**は 1 億 8,901 万 kWh で、前年同月比 12.6%減となり、11 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
・平成 27 年 2 月の**定期給与**は 217,405 円で前年同月比 0.9%減となった。**総実労働時間**は 152.1 時間で前年同月比 0.7%減、**所定外労働時間**は 11.5 時間で前年同月比 13.2%増となった。
・平成 27 年 2 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 0.83 倍で、前月を 0.01 ポイント下回った。また、**新規求人倍率**（季節調整値）は 1.15 倍で、前月を 0.03 ポイント下回った。
・**雇用保険受給者実人数**は 9,131 人で、前年前月比 5.6%の低下となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
平成 27 年 2 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 102.5 となり、前月比 0.8%の下落、前年同月比 1.3%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
・平成 27 年 3 月の**大型小売店販売額**は、全店舗ベースが 151 億円で前年同月比 12.4%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでも前年同月比 12.4%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 27 年 3 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 6,526 台で、前年同月比 14.4%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
・平成 27 年 3 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 545 千人で前年同月比 2.0%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 107 千人で前年同月比 1.6%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
・平成 27 年 2 月の**新設住宅着工戸数**は 245 戸で、前年同月比 7.9%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。
・平成 27 年 3 月の**公共工事請負額**は 88 億 7,400 万円で前年と同水準となった。また、累計請負金額は 1,693 億 9,400 万円で前年同月比 14.1%減となり、13 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
平成 27 年 3 月の**企業倒産**は、件数は 6 件で前年同月比 200.0%増となった。負債総額は 19 億 9,600 万円で前年同月比 3,226.7%増となった。

（3）景気動向指数 C I（平成 27 年 2 月分）…………… 9

先行指数	103.1（前月を 4.5 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）
一致指数	117.8（前月を 2.2 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した）
遅行指数	121.3（前月を 1.6 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 27 年 4 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I	…50.5（前期比 10.7 ポイント増、5 期ぶりに 50 を上回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I	…49.8（前期比 1.8 ポイント増、3 期連続で 50 を下回る）

1 青森県の推計人口（平成27年4月1日現在）

【概況】

平成27年4月1日現在の本県推計人口は、1,310,809人で、前月に比べ6,077人の減少となった。

○自然動態

出生者数が737人、死亡者数が1,461人で、724人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3,806人、転出者数が9,159人で、5,353人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
26.4.1	1,325,767	622,271	703,496	-0.440%	-5,857	-730	745	1,475	-5,127	3,923	9,050
26.5.1	1,325,297	622,167	703,130	-0.035%	-470	-714	711	1,425	244	3,608	3,364
26.6.1	1,324,485	621,682	702,803	-0.061%	-812	-552	775	1,327	-260	1,252	1,512
26.7.1	1,323,719	621,258	702,461	-0.058%	-766	-572	711	1,283	-194	1,247	1,441
26.8.1	1,323,182	621,004	702,178	-0.041%	-537	-456	840	1,296	-81	1,584	1,665
26.9.1	1,322,461	620,733	701,728	-0.054%	-721	-532	749	1,281	-189	1,669	1,858
26.10.1	1,321,895	620,565	701,330	-0.043%	-566	-603	831	1,434	37	1,528	1,491
26.11.1	1,321,130	620,185	700,945	-0.058%	-765	-721	784	1,505	-44	1,427	1,471
26.12.1	1,320,329	619,808	700,521	-0.061%	-801	-729	657	1,386	-72	931	1,003
27.1.1	1,319,297	619,304	699,993	-0.078%	-1,032	-845	680	1,525	-187	965	1,152
27.2.1	1,318,059	618,669	699,390	-0.094%	-1,238	-1,072	705	1,777	-166	1,064	1,230
27.3.1	1,316,886	618,120	698,766	-0.089%	-1,173	-754	642	1,396	-419	965	1,384
27.4.1	1,310,809	614,893	695,916	-0.461%	-6,077	-724	737	1,461	-5,353	3,806	9,159

3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平17.3	18.3	19.3	20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3
自然動態	出生者数	854	925	831	844	814	847	797	742	704	745	737
	死亡者数	1,522	1,318	1,296	1,327	1,327	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461
	自然増減数	-668	-393	-465	-483	-513	-600	-782	-756	-797	-730	-724
社会動態	県外からの転入者数	4,133	4,191	3,722	4,045	4,158	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806
	県外への転出者数	10,234	9,790	9,987	9,894	9,211	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159
	社会増減数	-6,101	-5,599	-6,265	-5,849	-5,053	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353
増減数計		-6,769	-5,992	-6,730	-6,332	-5,566	-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

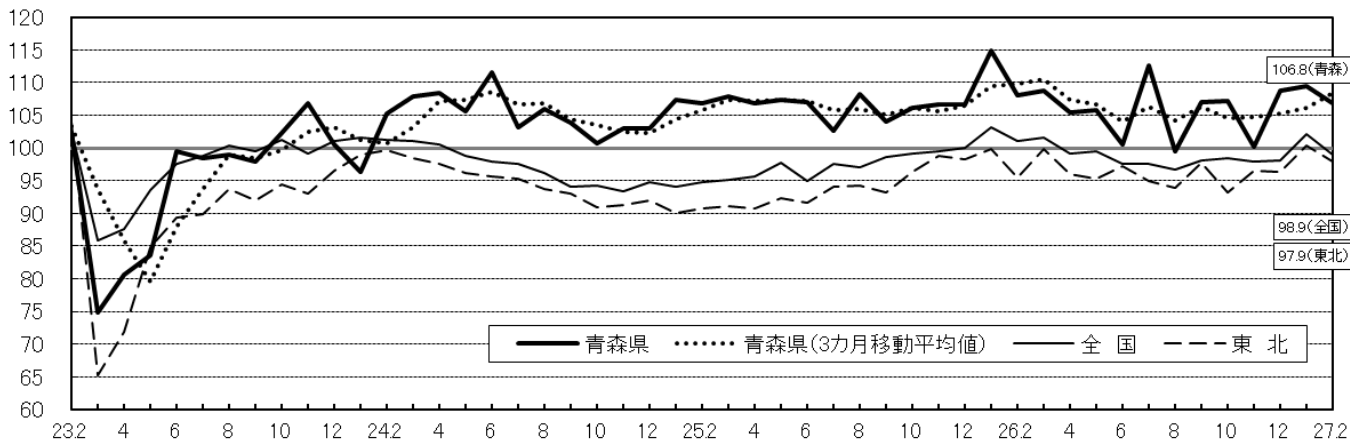
(2-1-1) 製造業の生産

平成27年2月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が106.8で、前月比2.5%の低下となり、3カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は96.4で、前年同月比1.1%の低下となり、2カ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電気機械工業、化学工業、非鉄金属工業などが上昇に寄与した一方、生産用機械工業、金属製品工業、鉄鋼業などが低下し、鉱工業全体では2.5%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

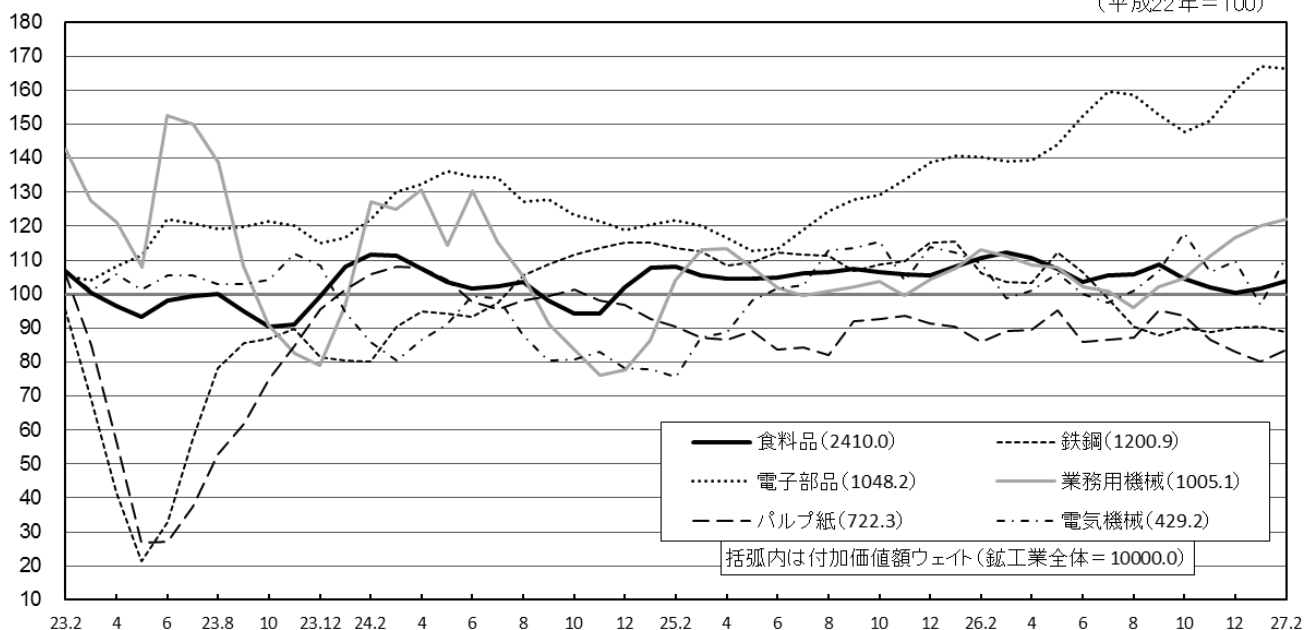


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -2.5%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電気機械工業	29.2	26.4	生産用機械工業	-69.6	-56.3
化学工業	23.1	17.0	金属製品工業	-28.1	-39.8
非鉄金属工業	15.1	12.1	鉄鋼業	-14.4	-36.8
輸送機械工業	21.9	11.0	電子部品・デバイス工業	-5.0	-18.9
パルプ・紙・紙加工品工業	8.4	10.8	業務用機械工業	-5.0	-13.5

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

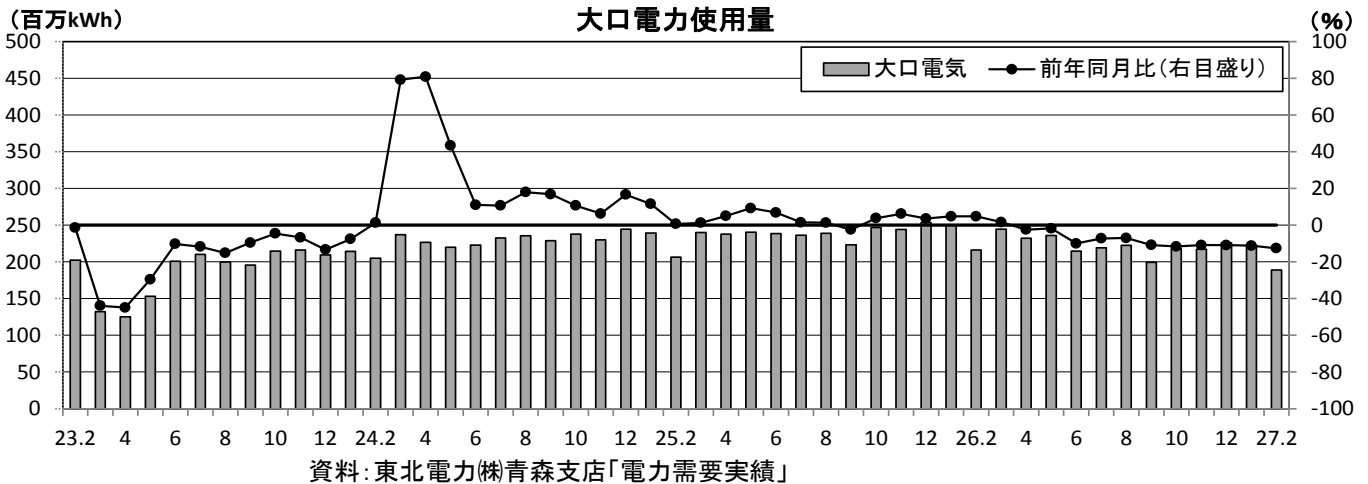
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-1-2) 電力使用量

平成27年2月の大口電力使用量は1億8,901万kWhで、前年同月比12.6%減となり、11カ月連続で前年同月を下回った。製造業、公益事業、鉱業で減少したことによる。

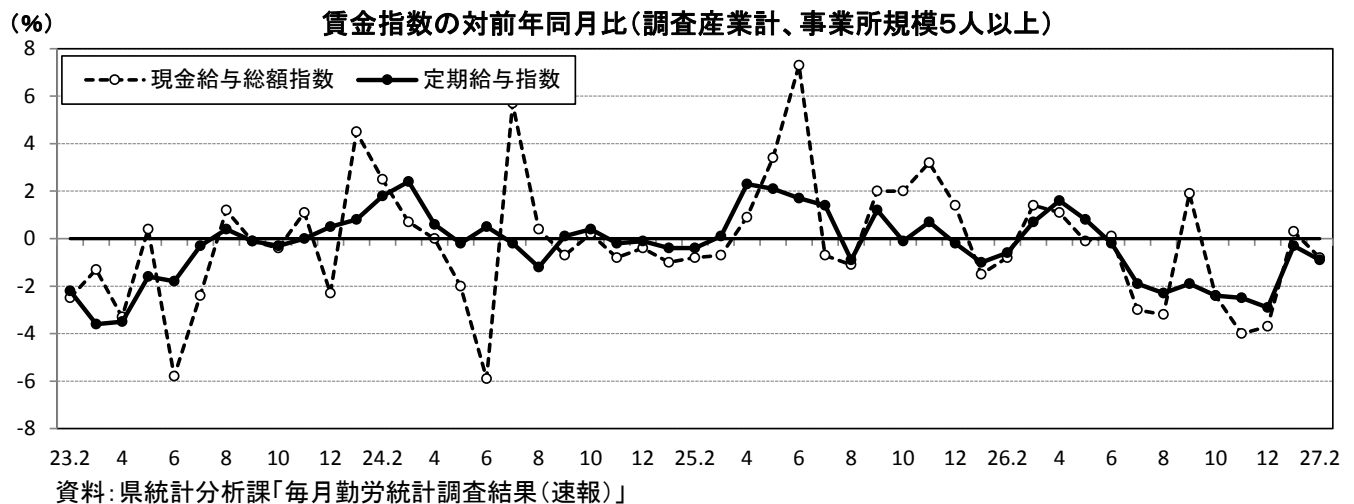


(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

平成27年2月の定期給与は217,405円で定期給与指数(平成22年=100)では98.8となり、前年同月比0.9%減と9カ月連続の減(現金給与総額218,323円、現金給与総額指数84.6、前年同月比0.8%減と1カ月ぶりの減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.6となった。

総実労働時間は152.1時間で、総実労働時間指数は98.4となり、前年同月比0.7%減と5カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は11.5時間で、所定外労働時間指数は126.4となり、前年同月比13.2%増と3カ月連続の増となった。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	218,323 円	260,171 円	84.6	82.2	-0.8 %	0.1 %
定期給与	217,405 円	257,074 円	98.8	97.8	-0.9 %	0.0 %
特別給与	918 円	3,097 円	—	—	—	5.7 %
総実労働時間	152.1 時間	142.3 時間	98.4	97.1	-0.7 %	-0.2 %
所定内労働時間	140.6 時間	131.4 時間	96.6	96.3	-1.7 %	-0.2 %
所定外労働時間	11.5 時間	10.9 時間	126.4	106.9	13.2 %	-0.7 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

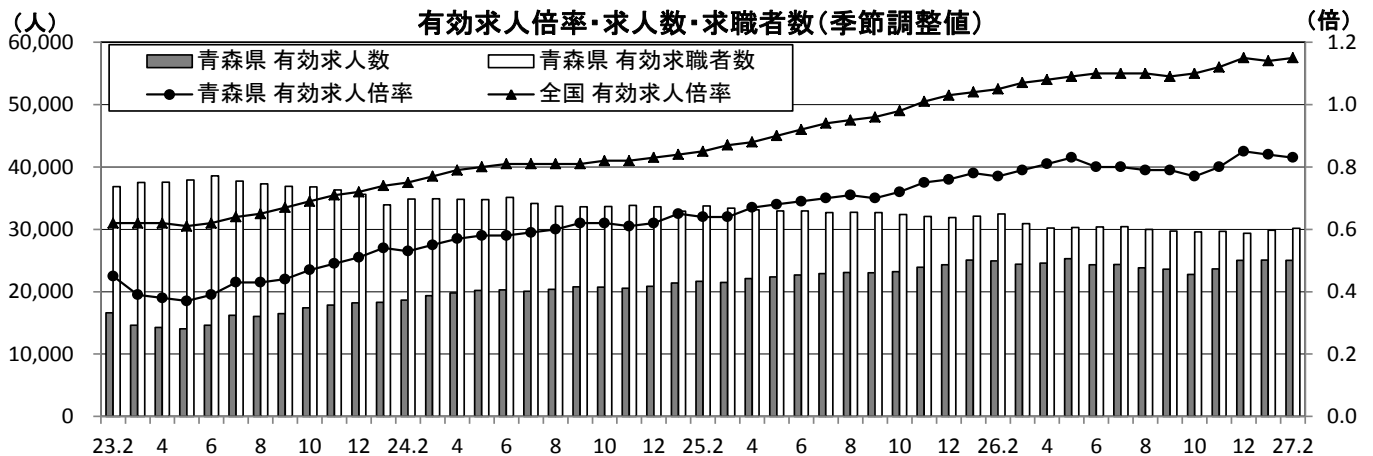
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

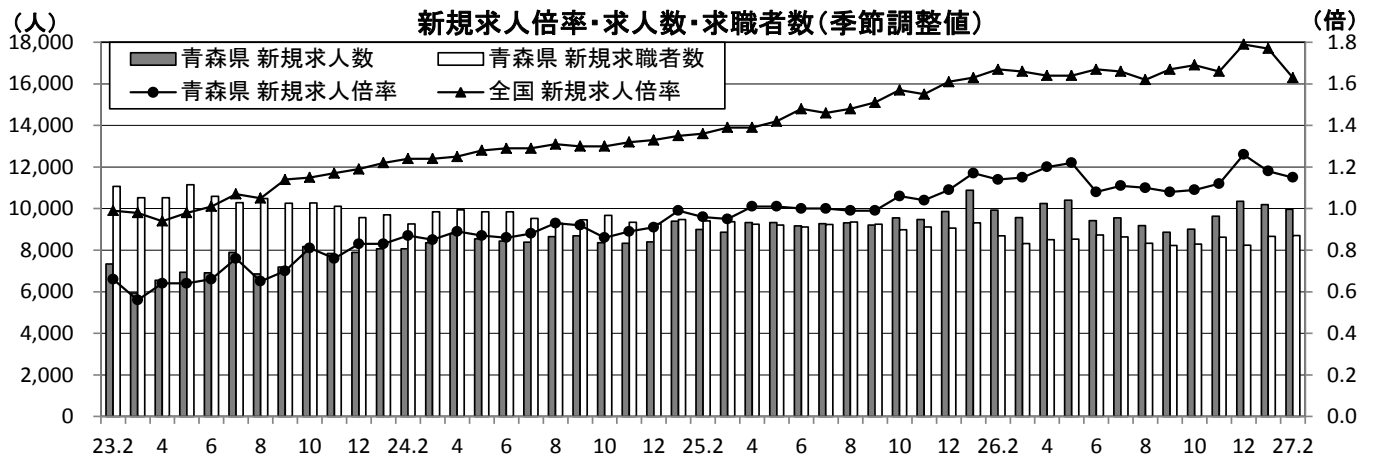
(2-2-2) 有効求人倍率

平成27年2月の有効求人倍率（季節調整値）は0.83倍で、前月を0.01ポイント下回った。



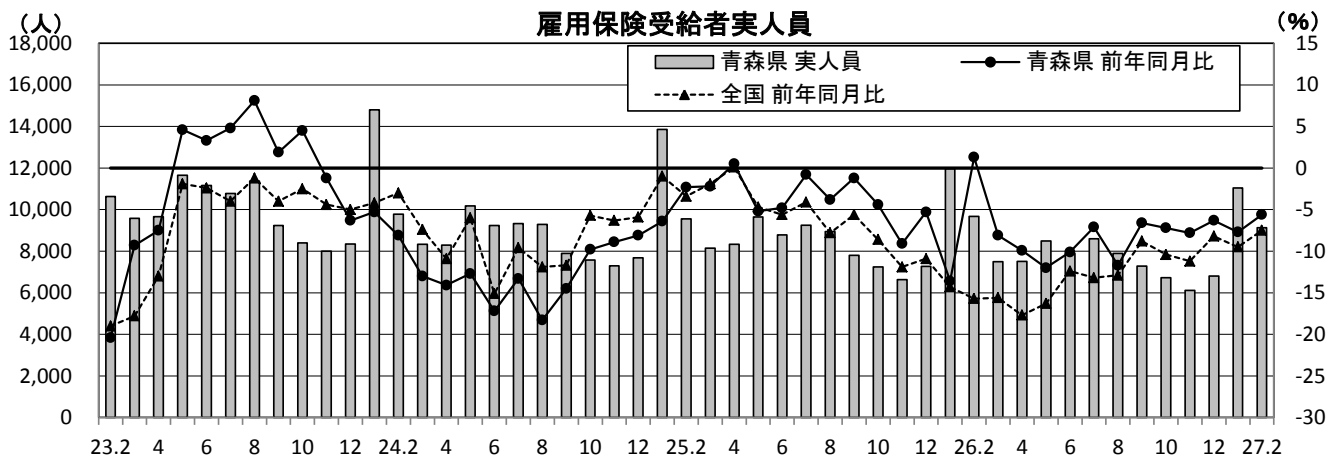
(2-2-3) 新規求人倍率

平成27年2月の新規求人倍率（季節調整値）は1.15倍で、前月を0.03ポイント下回った。



(2-2-4) 雇用保険受給者数

平成27年2月の雇用保険受給者実人数は9,131人で、前年同月比5.6%の低下となった。



(2-3) 物価

平成27年2月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が102.5となり、前月と比べ0.8%の下落、前年同月と比べ1.3%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.5となり、前月と比べ0.7%の下落、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は99.7となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.7%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.8%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

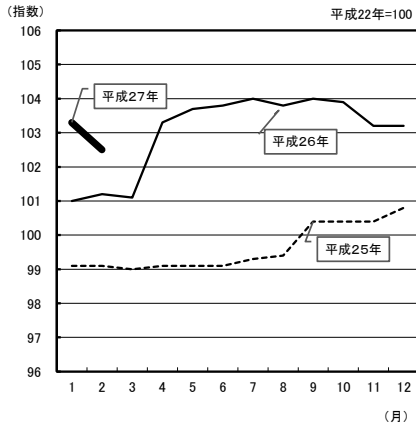


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

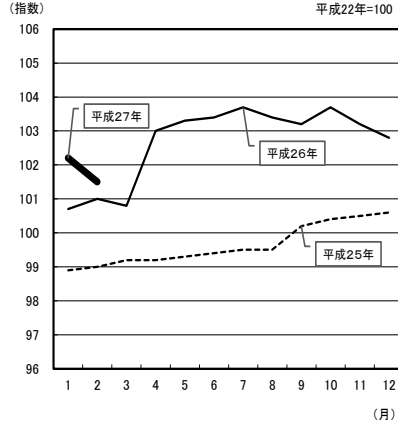
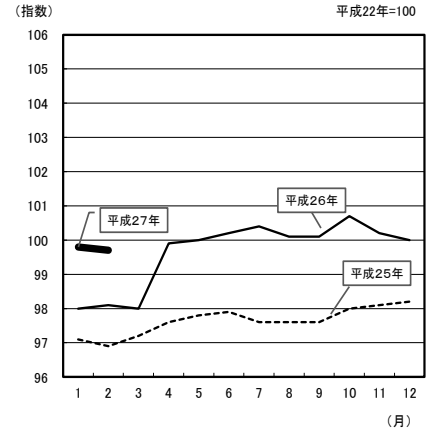


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く 総合	食料(酒類 を除く)及 びエネル ギーを除く 総合	食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事 用品	被及履 物	服 物	保 医	健 療	交通・ 信	教 育	教 娯	養 楽	諸 雑 費
当月指数	102.5	101.5	103.2	99.7	105.4	124.1	99.3	113.5	89.8	100.1	100.1	101.9	100.0	94.6	108.1			
前月比 (%)	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 1.0	▲ 2.7	0.1	▲ 2.9	▲ 0.3	▲ 0.9	0.5	▲ 1.4	0.0	▲ 0.3	▲ 0.6			
寄与度	—	▲ 0.68	▲ 0.84	▲ 0.06	▲ 0.26	▲ 0.15	0.02	▲ 0.32	▲ 0.01	▲ 0.03	0.02	▲ 0.18	0.00	▲ 0.03	▲ 0.04			
前年 同月比 (%)	1.3	0.5	1.4	1.7	5.3	16.7	1.0	▲ 4.2	0.0	▲ 2.1	2.9	▲ 1.9	3.3	2.2	1.6			
寄与度	—	0.50	1.20	1.05	1.38	0.77	0.19	▲ 0.48	0.00	▲ 0.08	0.12	▲ 0.26	0.08	0.20	0.10			

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

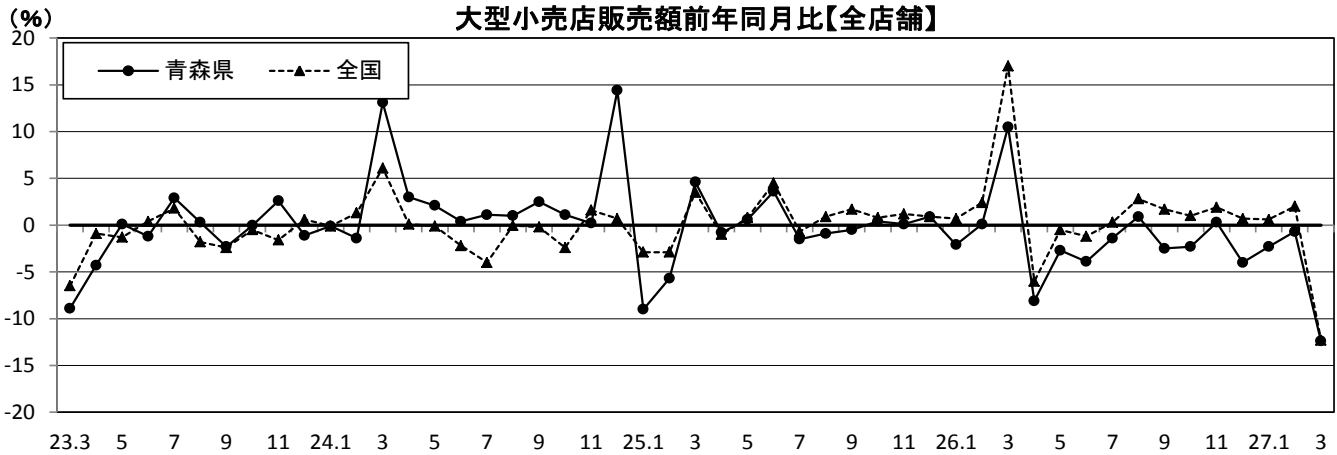
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

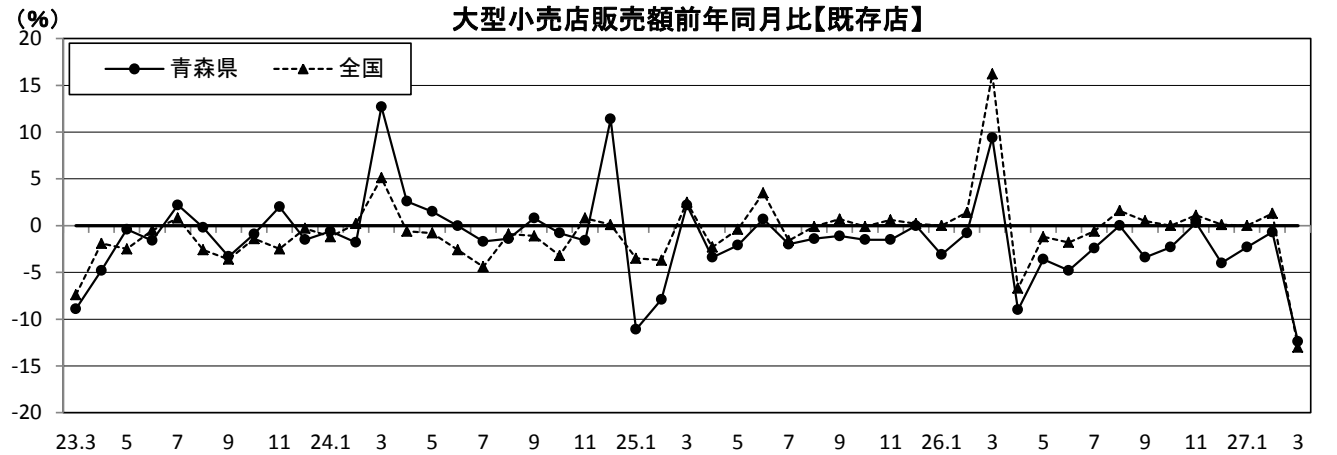
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 大型小売店販売額

平成27年3月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが151億円で前年同月比12.4%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでも前年同月比12.4%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。百貨店、スーパーともに、前年の消費税増税前の駆け込み需要の影響を受けて減少したことによる。



資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

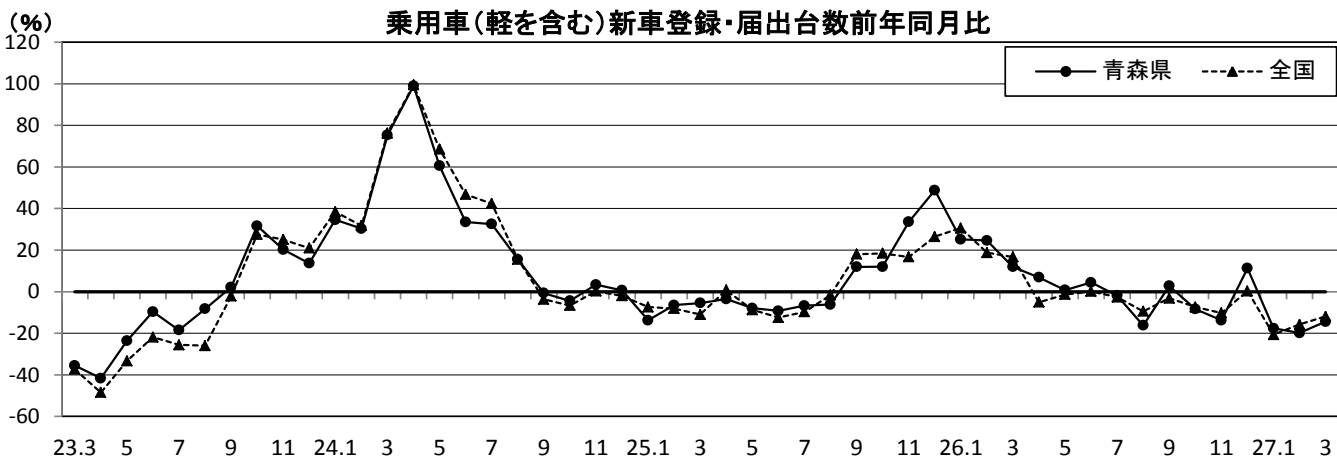


資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

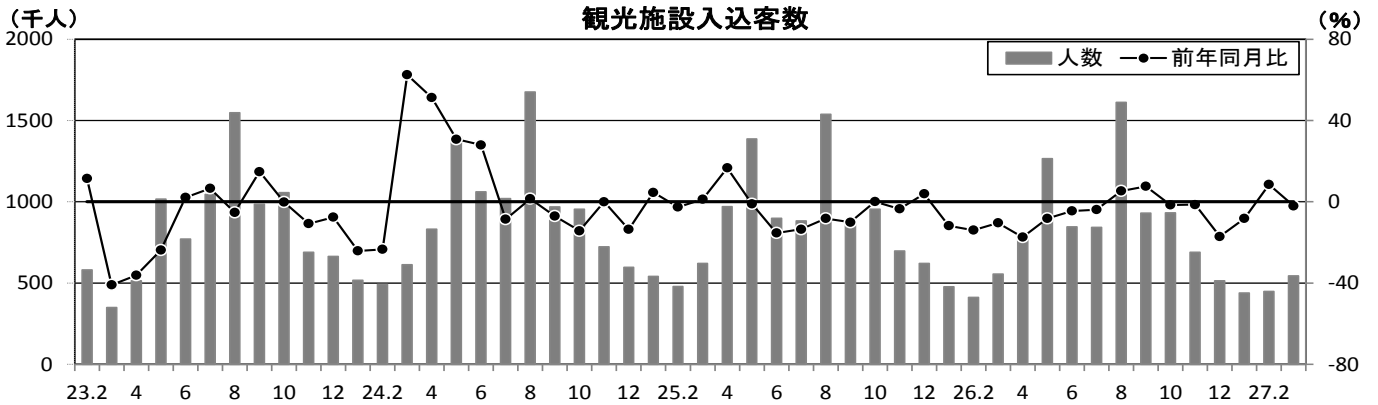
平成27年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,526台で、前年同月比14.4%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車、軽乗用車で減少したことによる。



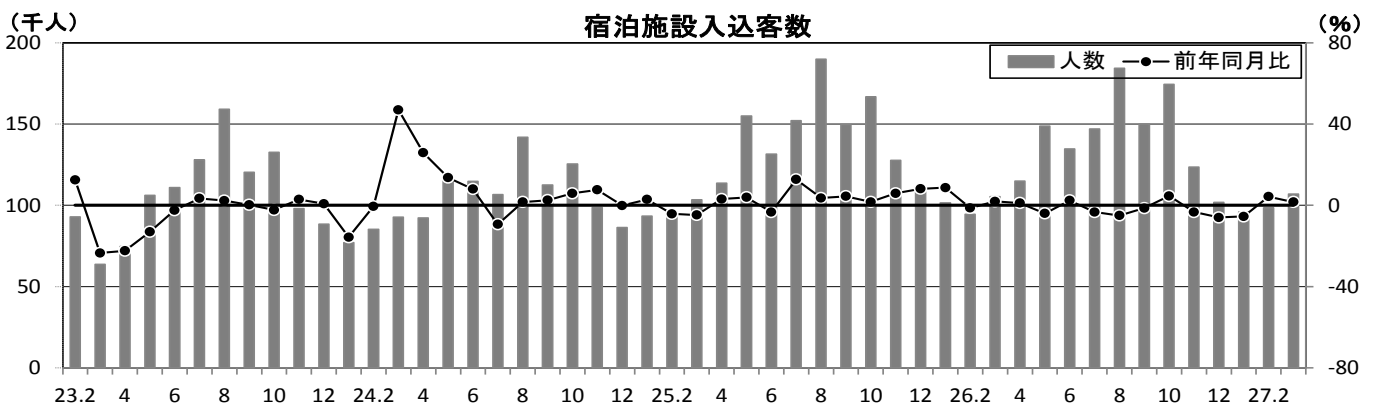
資料: 青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-4-3) 観光入込客数

平成27年3月の観光入込客数は、主な観光施設が545千人で前年同月比2.0%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は107千人で1.6%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は弘前市、八戸市などの施設で減少し、宿泊施設は弘前市、青森市などの施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」
 ※観光施設34施設（H26年1月～3月は35施設、H25年は36施設対比）

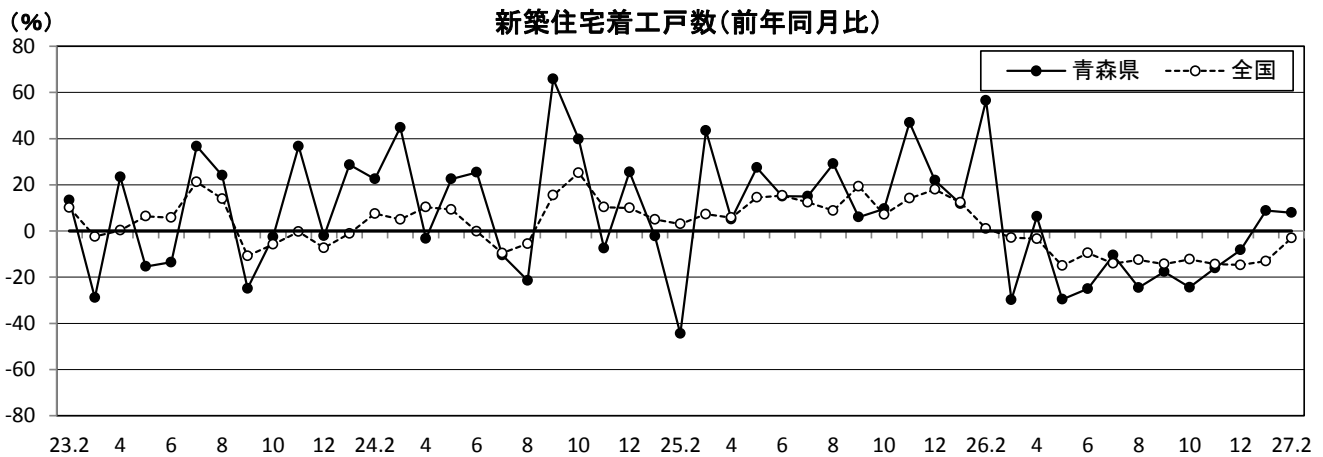


資料：県観光企画課「月例観光統計」
 ※宿泊施設58施設（H25年1月～3月は58施設・H25年4～11月は61施設・H25年12月～H26年3月は57施設・H26年4月～12月は59施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

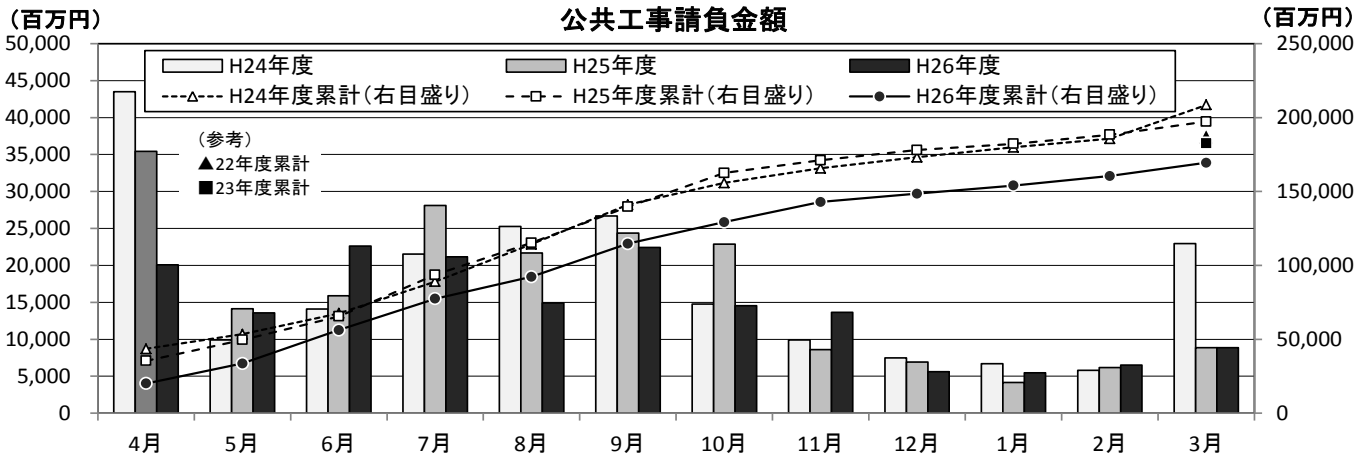
平成27年2月の新設住宅着工戸数は245戸で前年同月比7.9%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。貸家、分譲住宅が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-5-2) 公共事業

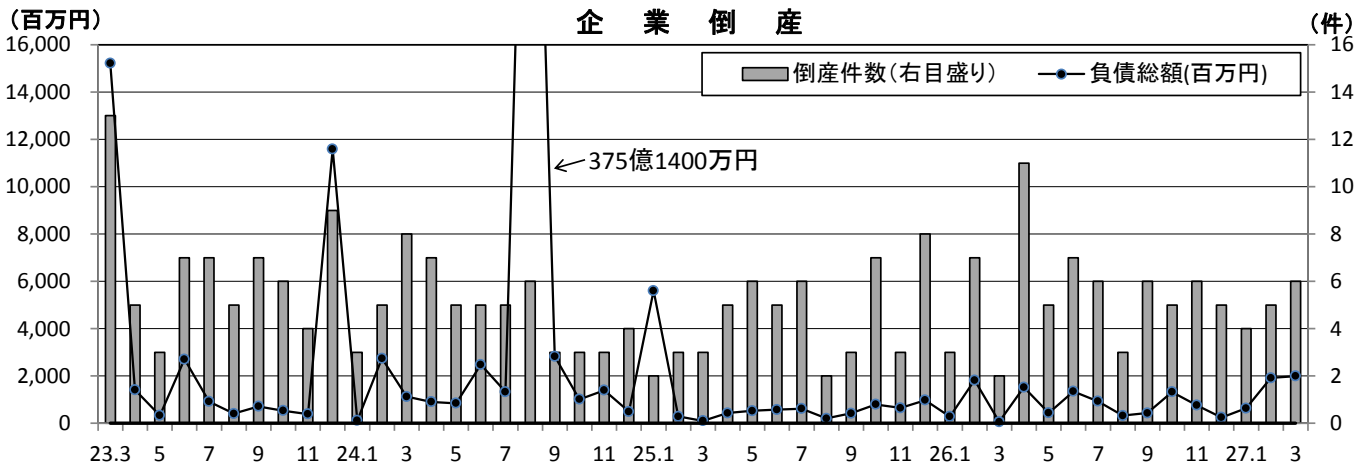
平成27年3月の公共工事請負金額は88億7,400万円で前年と同水準となった。また、累計請負金額は1,693億9,400万円で前年同月比14.1%減となり、13カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(2-6) 企業倒産

平成27年3月の企業倒産は、件数は6件で前年同月比200.0%増となった。負債総額は19億9,600万円で前年同月比3,226.7%増となった。



資料: (株)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

(3) 青森県景気動向指数

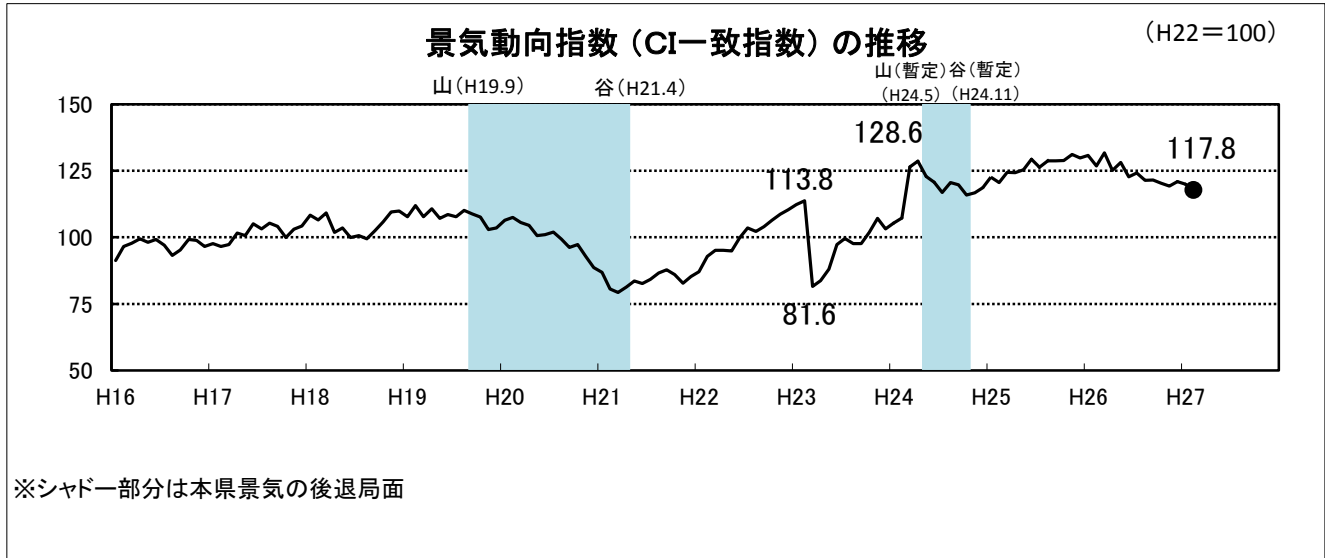
平成27年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 103.1、一致指数 117.8、遅行指数 121.3 となった。

先行指数は、前月を 4.5 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 2.2 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 1.6 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した。

2月の一致指数は、生産・物流関連等の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
所定外労働時間指数（全産業）	5.25	2カ月ぶり	中小企業景況D I	-3.05	2カ月連続
新設住宅着工床面積	1.71	4カ月連続	新規求人倍率（全数）	-2.17	2カ月連続
企業倒産件数	1.34	2カ月ぶり	乗用車新車登録届出数	-0.37	2カ月連続
生産財生産指数	0.87	2カ月ぶり			
建築着工床面積	0.83	2カ月連続			
一致系列					
旅行取扱高	1.71	4カ月ぶり	大口電力使用量	-1.67	3カ月連続
大型小売店販売額（既存店）	0.48	2カ月連続	有効求人倍率（全数）	-1.26	2カ月連続
東北自動車道IC利用台数	0.41	4カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-1.05	2カ月ぶり
			鉱工業生産指数	-0.80	3カ月ぶり
遅行系列					
常用雇用指数（全産業）	3.06	3カ月連続	青森市消費者物価指数（総合）	-2.52	9カ月連続
現金給与総額（全産業）	2.84	3カ月連続	公共工事請負金額	-0.98	2カ月ぶり
りんご消費地市場価格	0.63	4カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.90	2カ月ぶり
			家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-0.65	2カ月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（D I）		
先行指数	56.3%	（3カ月連続で50%を上回った）
一致指数	42.9%	（5カ月連続で50%を下回った）
遅行指数	71.4%	（5カ月ぶりに50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成27年4月期)

現状判断DIは、暖冬の好影響等から、前期比10.7ポイント増加の50.5となった。

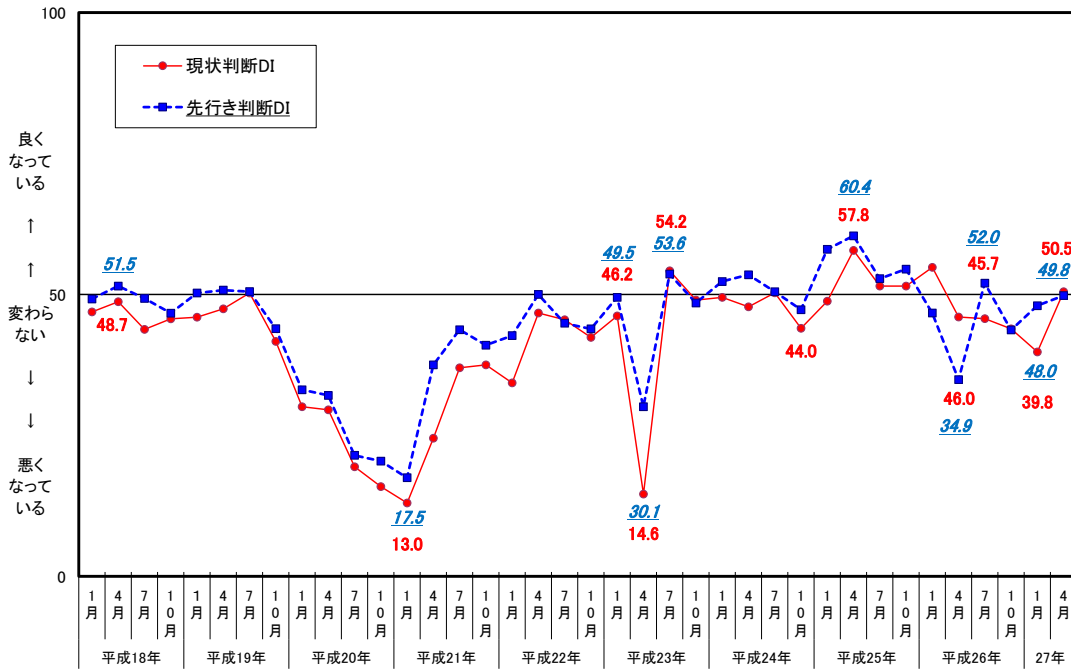
先行き判断DIは、物価上昇への懸念等がみられるものの、観光・行楽シーズン到来による消費回復への期待等から、前期比1.8ポイント増加の49.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて10.7ポイント増加の50.5となり、景気の横ばいを示す50を5期ぶりに上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、前期調査と比べて1.8ポイント増加の49.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

(調査期間 平成27年4月1日～4月13日 回答率100%)

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が14.0ポイント増加、「変わらない」が4.0ポイント増加、「やや悪くなっている」が11.0ポイント減少、「悪くなっている」が8.0ポイント減少したことにより、全体では10.7ポイント増加の50.5となり、景気の横ばいを示す50を5期ぶりに上回った。

向

判断理由では、消費の冷え込みが続いている、食料品を中心に値上げが続き、購買行動が慎重になっているといったマイナス面をあげる声がある一方で、原油価格の下落の影響や住宅販売の動きが出はじめて来たといった声のほか、天候に恵まれ春物衣料が好調、雪解けも早く人出も多いといった暖冬の好影響をあげる声があった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区で増加し、東青、下北地区では景気の横ばいを示す50を上回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「良くなる」が横ばい、「やや良くなる」が1.0ポイント減少、「変わらない」が6.0ポイント増加、「やや悪くなる」が2.0ポイント減少、「悪くなる」が3.0ポイント減少したことにより、全体では1.8ポイント増加の49.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

向

判断理由では、円安に伴う輸入食品及び原材料の上昇から国内生産品の値上がり懸念する声や、値上げが続く中で所得増加も期待できず、節約志向が続くことが懸念されるといった声があったものの、ゴールデンウィークや行楽・イベントがあるので人が動く、観光客が多いと売上にも景気にも繋がるなど、観光・行楽シーズン到来による消費回復に期待する声があった。

地区別では、前期調査と比べて、東青、津軽地区でポイントが増加し、県南、下北地区では横ばいとなった。下北地区では、2期連続で景気の横ばいを示す50となった。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 主に自店での方針が受け入れられていると思う。状況にあわせ少しづつ、変化させている。(一般飲食店=東青)
- 春になり、住宅販売の動きが出はじめてきたため。(住宅建設販売=東青)
- 2月以降、入場、売上共に好調なため。(競輪場=東青)
- 燃料費(原油)が値下がりした事による。(都市型ホテル=津軽)
- 今年も雪が多かったが、天気の良い日が続き、雪解けも早く、人出も多いように見え、少し売上に影響していると思います。(一般飲食店=津軽)
- お客様の購買意欲が少しだが増してきている。外飲食店も徐々に客数の増加が認められる。ただし、良いところとそうでないところが二極化している。(卸売業=県南)
- 物価の上昇と賃金の上昇がともなわないことで財布のヒモは固い。(商店街=東青)
- 来店客数については、回復傾向ですが、客単価が低い。(スーパー=東青)
- 消費税増税から1年経過したものの、食料品を中心に相次ぐ値上げがあり、購買行動が慎重になっていると思われるため。(百貨店=県南)
- 単価ダウン、高額品低迷、二極化がさらに進んでいる。値上げ続き、消費低迷。(スーパー=県南)
- 受注量はあまり変わっていませんが、景気の良い客先と良くない客先がはっきり分かれているように感じます。(電気機械製造=津軽)
- 堅調に利益を計上している企業とそうでない企業が半々ずつと、この1年間変わらず推移している。(経営コンサルタント=県南)
- 消費税増税から1年が経過したが、津軽地方は増税の影響が色濃く残ったまま。円安や原材料の高騰などで先行きは楽観できない。(新聞社求人広告=津軽)
- △ 12月の大雪のわりに1~3月が暖冬で、冬季生活必需品の売上げがイマイチでした。(ガソリンスタンド=津軽)
- △ 昨年受注した民間工事もほぼ消化したが、次の案件があまり出てこない。(建設=県南)
- × 売上が減っている。(タクシー=下北)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ これからの季節には特に何も問題はないので、普通に良いと思う。(一般飲食店=東青)
- ゴールデンウィークや行楽・イベントがあるので人が動くと良くなります。(コンビニ=津軽)
- 春近し今年桜が早咲きということで年間を通してみるとやっぱり観光客が多いと売上にも景気にもつながっているように思います。(一般飲食店=津軽)
- これから暖かくなり、地域の催し物、祭りなどがあると外出する回数も増え、景気は良くなると思います。気温の状態の変動はありますが、これからの一番いい時だと思います。(コンビニ=下北)
- 4月からの値上げ商品が目白押しで、買い控えの傾向は続く。(商店街=東青)
- 宿泊や宴会等の予約状況は前年と変わらず、食品関係の値上げの動きがあり、今後の動向が気になりである。(都市型ホテル=東青)
- 増税後の回復は予想以上にもたついた。今年に入り回復基調。今後の商品価格、所得が消費を左右していく。(家電量販店=津軽)
- 食品の値上げがさらに続く。その他、非食品、原料高騰での値上がり、所得は増える要因が無い。保険料値上がり。(スーパー=県南)
- 少し回復基調にあったが、各メーカーの値上げラッシュが足止めになるのではないかと不安材料。(卸売業=県南)
- 中小企業の多い当地において、報道されているような大幅な賃上げが期待できないことから、大きく変わることはないように思う。(ガソリンスタンド=県南)
- 石油関係の値下がりも一服し、円安に伴う輸入食品及び原材料の上昇から国内生産品にまで値上がりの状況にある。反面賃金の上昇は中央の状況とは程遠く、横ばいしないし若干の上昇に止まる。景気の状態は良く横ばいがしばらく続くと見られる。(経営コンサルタント=東青)
- 期待したいが、好材料が見当たらない。(新聞社求人広告=東青)
- △ 2月から3月にかけて値上げが相次ぎ、これからも値上げ予定がある中で所得増も期待できず、節約志向が強まっているように思います。景気が良くなるように思えません。(衣料専門店=県南)
- △ 設備投資の話があまり聞かれない。(建設=県南)
- × 4月からの物価の値上げも影響してくると思う。(スナック=津軽)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」